

STOP！ クリハラリス

「特定外来生物の分布を抑えるために」

～ クリハラリスは何を食べる ～

私立 光明学園相模原高等学校 理科学研究部

日本と神奈川県への移入経緯

1930年代 台湾から伊豆大島に移入され、飼育されていた個体が逃亡し野生化

1946年頃 島内のツバキ、ミズキに顕著な被害が見られるようになる。
島内でのクリハラリスの増殖が確認される。

1951年 伊豆大島から50頭が江の島の植物園に移入され、逃亡し野生化
湘南、三浦方面に分布域を拡大する。

1989年実施の調査結果では、鎌倉を中心に県南部の広範囲に拡大。



活動内容

県内の分布状況を調査・整理・情報の共有

(本大会令和6年発表)

分布調査を実施している研究者から情報を得て、地図上で整理
分布調査が進んでいない場所へ行き、コールバック法で生息を確認
得られた情報をクリハラリス情報ネットで共有

胃の内容物から食性を調査 (本大会発表内容)

捕獲駆除された個体を譲り受けて、胃内容物について調べる。

真冬の餌資源が乏しい時期に樹皮を剥離して昆虫を捕食している可能性がある。

昆虫に的を絞って調査を実施。

<調査方法>

神奈川県葉山町で有害獣駆除されたクリハラリス9個体を対象

DNA分析によって、どのような昆虫種を餌資源としているのかを調べた。



①胃内容物からDNAを抽出

マイクロチューブに内容物とプロティナーゼK溶液、緩衝液を加えて56℃でインキュベート

ACTRA Flex（磁気ビーズ式）のDNA抽出機を使用し、DNAを抽出

②PCRによる増幅

DNA抽出液にZBJ（昆虫食性解析用プライマー）、PCR Master Mix、緩衝液を加える。
サーマルサイクラーに入れ、DNAを増幅させる。

③次世代シーケンサー（NGS）で解析

増幅させたDNAを次世代シーケンサーで解析後、DDBJ（公共データベース）で種を検索

DNA分析による胃内容物結果

	剖検番号	内容物の内訳（リード数3000以上のもの）		
個体A	K13	ナガゴマフカミキリ（3662）	オウトウショジョウバエ（4770）	
個体B	K16	アブラムシ科(30015)	キマダラカミキリ（3461）	ナガゴマフカミキリ（59788）
個体C	K17	オウトウショウジョウバエ（182490）	コマユバチ科(17358)	ハナバエ科（7710）
個体D	K18	アブラムシ科（38963）	キハダショウジュバエ（4037）	シリアゲアリ（66989）
個体E	K19	コスカシバ（35520）		
個体F	K20	キマダラカミキリ（4292）		
個体G	K24	コマユバチ科（44614）	ナカウスエダシャク（11534）	
個体H	K30	ヒグラシ（66330）		
個体I	K34	ハシリダニ科（243）		

